

茨木市次世代育成支援行動計画（第3期）
子ども・子育てワークショップ実施要領

1 ワークショップの実施目的

- 今回実施するワークショップは、事務局が意見・アイデアを求めたいテーマについて、参加者が自由に意見を出し合い、お互いの思いや考えの背景について探求し、相互理解を深めることを目的に実施します。
- したがって、急いで問題を解決したり、結論を出したり、終わりに合意形成をすることが目的ではありません。
- ワークショップは次の目的で実施します。

【ワークショップ実施目的】

- 全員に自由に意見を言ってもらう
- いつもと違う雰囲気話し合いをしてもらう
- 多くの知恵や考えを集める
- 参加者の考えや認識を深める
- 参加者どうしの新たな気づきを得る
- 参加者相互の理解を進める
- お互いの関係性の質を高めたい

2 ワークショップの実施方法

- 今回実施するワークショップは、上記の目的を踏まえ、「対話」と、対話から生まれた意見・アイデアを参加者が協力し合ってまとめあげる「KJ法を使ったグループワーク」を組み合わせ実施します。

ワークショップとは

- ワークショップとは、何かについてアイデアを出し合い、意思決定をする集まりで、会議の一種です。
- 通常の会議と異なる点は、だれもが自由に意見を言いやすいように工夫されていること、グループの創造行為と合意形成に焦点をおいていること、そして形式ばっていないことです。一見、ゲームのようにあそびの要素を持ちながらも皆で考えて、ある物事に判断をくだす集まりという意味で大変重要な会議です。
- ただし、今回は、結論を導き出したり、ある事柄に対する合意形成を図ることではなく、これからの茨木市の次世代が育つ環境づくりのために、地域社会がしなければいけないことのヒントを得ることを重視したワーキングを行います。

KJ法とは

- 問題解決のアイデアを出す手法で、ブ레인・ストーミングで出された事象を紙に1つずつ書き出し、グルーピングにより、小さなグループにまとめる。さらにそれを小グループ、大グループに分類していく。つまり、様々な関連する事象を、組み立てて図解していく作業。こうした作業を通じて、課題に対する解決策やヒントのきっかけを生み出していきます。

3 実施日時

○1回目：平成26年10月27日（月）午後6時50分から1時間40分程度

○2回目：平成26年11月25日（火）午後6時50分から1時間40分程度

※会議は午後6時30分開始となりますが、約20分は報告事項等の説明をいたします。

4 開催場所・広さ

○テーマ（3テーマ）別にグループ分け

○1グループ（1テーブル）×4～5人程度で、3テーブルセッティング可能な部屋（12～15人程度）

5 グループ別テーマ案とワーキングの概要

○テーマは、計画・施策の中でも特に重点的に取り組みたい、または取り組みの弱い施策に関するものとし、次の3つを予定します。

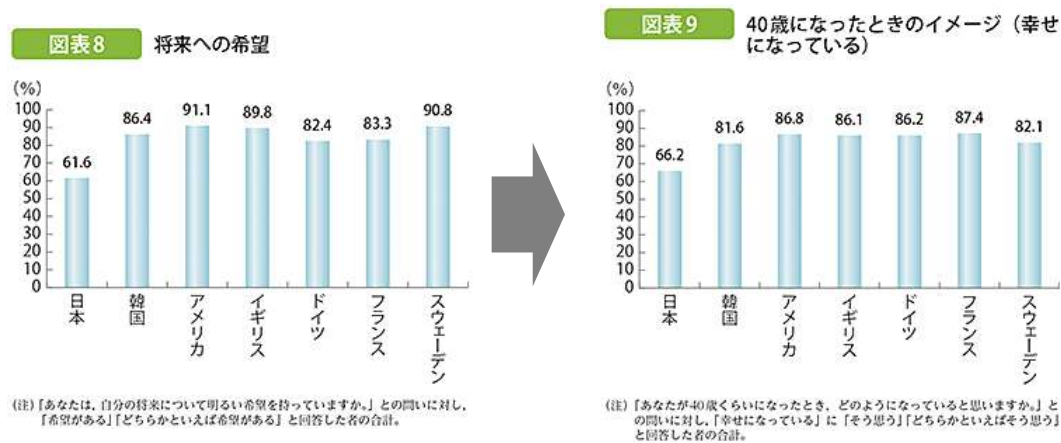
○できるだけ、各々テーマに沿った具体的なデータや事例を引用し、対話のきっかけ、端緒をつかみ、参加者から多様な意見・アイデアが出るよう配慮します。

■第1回目

グループA 若者への支援のために必要なことを考える

※若者：主に高校卒業後から30歳代前半ぐらいまでの人たち

①対話：下のグラフを見て、「日本の若者の将来への希望が他国に比べ低い背景は何だと思えるか？」をテーマに参加者どうして自由に対話を実施



※平成25年度・我が国と諸外国の若者の意識に関する調査（日本を含めた7カ国の満13～29歳の若者を対象とした意識調査結果から）

②グループワーク

ア) ①の対話を踏まえ、若者が将来に対し希望を持てるようにするために必要なことをポストイットに書き出す

- ・思いついた課題をポストイットにできるだけたくさん書きだす（ポストイット1枚に1課題だけ）
- ・書き出す時は、「〇〇だから、〇〇が必要」「〇〇だから、〇〇することが大切」などの表現でできるだけ統一

イ) ア) のポストイットを模造紙に貼り付ける

ウ) イ) について、同趣旨の意見をグループ化（KJ法）する

グループB 情報提供機能を高めるために必要なことを考える

①対話：下の関係団体に対するヒアリングで出された情報提供に関する主な意見や要望を読んで、「現在の市の福祉に関する情報提供について、利便性や機能面で充実が必要なことは何だと思うか？」をテーマに参加者どうしで自由に対話を実施

・トワイライト事業やショートステイがニーズ調査の中でも 0.4%と利用者が少ない。茨木市の子育てハンドブックに掲載されている事業だが、知らない保護者が多い

・学童保育は、支援学級に在席している子は6年生まで利用できるようになるが、制度変更を知らずに利用できなくなった家庭がある。施策の周知徹底を図ってほしい

・放課後子ども教室があることやその教室が他市でうまくいっている事例など知らなかったなので、そういう情報も提供してほしい

・広報の中で、「詳細はホームページで」という記載は、パソコンを持ってない人は困るので、「問い合わせ先」も明記してほしい

・3歳児の身体測定を園庭開放の日できるようにしたが、年によって定員割れがあったり定員オーバーがあったりする。情報発信して受け取れる人には、定員割れの状況を伝えているが、発信しても受け取れない人への対応ができていない

・児童福祉法改正後、相談内容によって、子育て支援課と障害福祉課のどちらに相談に行けばいいのかわかりにくくなった。相談内容に応じてどの窓口に行けばよいかわかるような情報提供がほしい

・相談に行こうと一歩を踏み出せる雰囲気の良い窓口をつくって、そこで必要な情報提供を行う。まずは、その窓口をしっかりと知らせるのが大切

②グループワーク

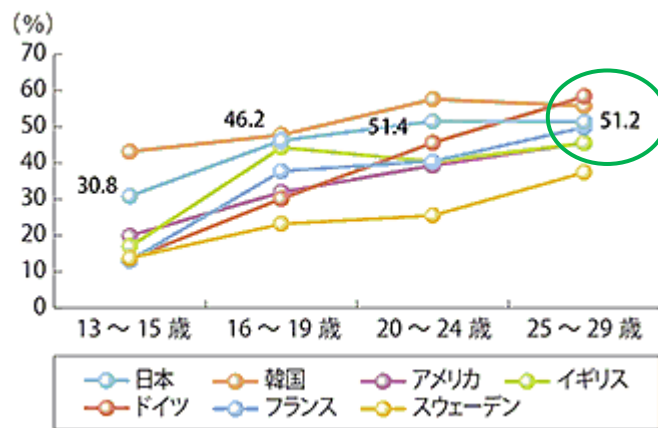
ア) ①の対話を踏まえ、情報提供の利便性の向上や機能を充実するために必要なことをポストイットに書き出す

イ) ウ) は同じ

グループC 少子化に歯止めをかけるために必要なことを考える

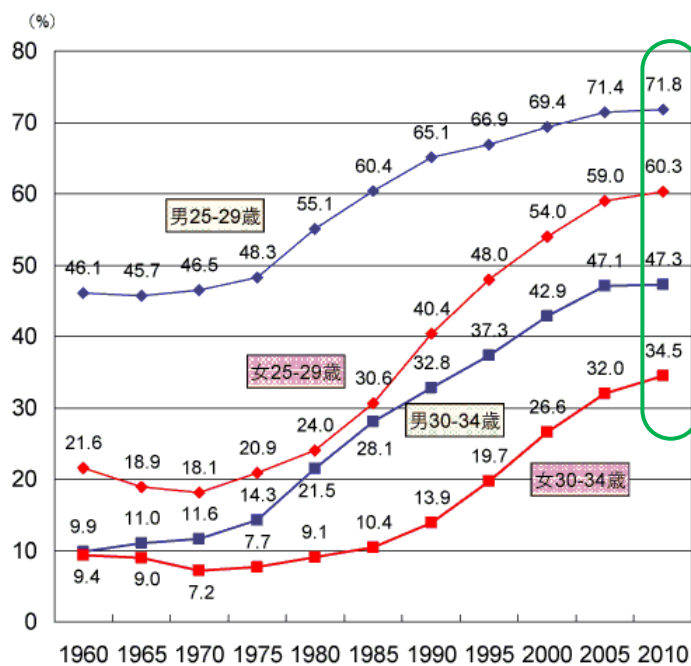
①対話：下のグラフは、日本の若者の結婚に対する意識と、未婚率の推移を表しています。これらのグラフをみて、「結婚希望が高いにもかかわらず、結婚しない・していない若者の割合が高くなってきている背景にあるものは、何だと思うか？」をテーマに参加者どうしで自由に対話を実施

【図1・結婚意識】「早く結婚して自分の家族を持ちたい」と思っている日本の25～29歳の若者は2人に1人（51.2%）



資料：平成25年度・我が国と諸外国の若者の意識に関する調査（日本を含めた7カ国の満13～29歳の若者を対象とした意識調査結果から）

【図2・未婚率】25～29歳の若者の未婚率は男性71.8%、女性60.3%。30～34歳でも未婚率は男性47.3%、女性34.5%。



資料：総務省統計局「国勢調査報告」

②グループワーク

ア) ①の対話を踏まえ、若者の結婚に関する意識と実態のギャップを埋めるために必要なことをポストイットに書き出す

イ) ウ) は同じ

■第2回目（第1回目からの宿題）

グループA 若者への支援の方法を考える

○グループワーク

①第1回目でのグループワークの結果を踏まえて、

「若者が将来に希望をもてるようにするために、地域でできること、行政がすべきことを考える」

をテーマに、アイデアをポストイットに書き出す

②①のポストイットを模造紙に貼り付け、同趣旨の意見をグループ化する（地域、行政別に区分する）

グループB 情報提供機能のあり方考える

○グループワーク

①第1回目でのグループワークの結果を踏まえて、

「相談の手が届かない、情報が届かない・入手できない人に対して、地域でできること、行政がすべきことを考える」

をテーマに、アイデアをポストイットに書き出す

②同じ

グループC 少子化に歯止めをかける手立てを考える

○グループワーク

①第1回目でのグループワークの結果を踏まえて、

「若者が結婚や出産、子育てに希望をもてるようにするために、地域でできること、行政がすべきことを考える」

をテーマに、アイデアをポストイットに書き出す

②同じ

6 プログラム（タイムスケジュール）案

《第1回目》

ステップ	内 容
開会	
あいさつ (5分)	・市からワークショップ開催の趣旨等説明 ・こども育成支援会議・会長あいさつ
オリエンテーション (15分)	○ワークショップについてレクチャー ・「ワークショップ」とは何か ・ワークショップの流れ・進め方等 ※全体進行役（ファシリテーター）を1名配置 ※各グループ内に進行役として代表者を参加者の中から1名事前に選任（もしくは市職員の方を配置）
自己紹介 (4～5分/テーブル)	○アイスブレイクを兼ねた自己紹介 ・A4の紙に「自分の名前」「私の仕事」を書き、1分以内で要領良く発表
ワークショップの実施 (60分程度)	○グループ(テーブル)ごとに対話、グループワークの開始 ■設定されたテーマについて対話(30分程度) ①テーマに応じて、参加者が対話を行う。 ②対話の中で、テーマに対する課題が思いついたら、ポストイットに記入し模造紙に貼り付ける ■対話後、グループワーキング(20分程度) ①模造紙に貼られたポストイットの課題文を読みながら、同趣旨の課題文をグループ化する ②グループ化したポストイットをカラーペンで色分けし見出しをつけ視覚的に関連性がわかるように整理する ■グループワークの成果を振り返る(5分程度) ①参加者どうして感想を述べ合う ②グループ発表の発表者を選定(複数可)し、発表のポイントを整理する
プレゼンテーションの実施(10分程度)	■成果をグループ間で共有するため、グループワークの成果発表(1グループ×3分程度)
閉会あいさつ (5分)	市、会長から閉会のあいさつ
閉会(解散)	<全体で約2時間>

《第2回目》

ステップ	内 容
開会	
あいさつ (5分)	・市からワークショップ開催の趣旨等説明 ・こども育成支援会議・会長あいさつ
オリエンテーション (15分)	○ワークショップについてレクチャー（リマインドと初参加者向け） ※内容・体制は第1回目と同様
自己紹介 (4～5分/テーブル)	○アイスブレイクを兼ねた自己紹介
ワークショップの実施 (55分程度)	○グループ(テーブル)ごとに対話、グループワークの開始 ■第1回目の振り返りをしながら、第2回目の設定テーマについて対話（30分程度） ※対話の中で、アイデアが思いついたら、ポストイットに記入し模造紙に貼り付ける ■対話後、グループワーキング（20分程度） ①模造紙に貼られたポストイットのアイデアを読みながら、同趣旨のアイデアをグループ化する ②グループ化したポストイットをカラーペンで色分けし見出しをつけ視覚的に関連性がわかるように整理する ■グループワークの成果を振り返る（5分程度） ①参加者どうして感想を述べ合う ②グループ発表の発表者を選定（複数可）し、発表のポイントを整理する
プレゼンテーションの実施（10分程度）	■成果をグループ間で共有するため、グループワークの成果発表（1グループ×3分程度）
感想シートへの記入 (5分程度)	■ワークショップに参加した感想をアンケート用紙に記入
閉会あいさつ (5分)	市、会長から閉会のあいさつ
閉会（解散）	<全体で約2時間>